

<b>【科目名】</b> 臨床総合実習Ⅱ（総括）		<b>【担当教員】</b> 理学療法学専攻専任教員 (メールアドレス) matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー)水曜日以外の在室日
<b>【授業区分】</b> 専門分野（臨床実習）	<b>【授業コード】</b> 3-19-0725-0-1	
<b>【開講時期】</b> 4年次 前期	<b>【選択必修】</b> 必修	
<b>【単位数】</b> 8単位	<b>【コマ数】</b>	
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) 1. この科目を履修するには、3年次までのすべての科目を修得すること。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 1. 実習の手引きを熟読しておくこと。		
<b>【講義概要】</b> (目的) この科目は、学内教育の総括とする。実習指導者の下で、理学療法について学びながら、自ら問題を解決できる能力を養い、卒後は即戦力のある専門職になることを自覚するために必要な知識や役割、行動、社会性を学ぶ。また、担当症例に対する適切な理学療法を行い、治療経過を観察・記録し、障害像を的確に把握することを学ぶ。 (方法) <b>【学内実習】</b> 実習前は実習計画を立て、計画に準じた課題を遂行する。実習後は症例発表を行い、プレゼンテーション能力を養う。 <b>【学外実習】</b> 実習指導者の下、理学療法に必要な知識を整理する、また担当症例の評価から治療までの一連の流れを実施し、適切に経過を観察・記録し、障害像を把握する。		
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 1. 理学療法士として必要な知識を身につける。 2. 適切な評価を行い、症例に即した治療を実施する。 3. 経過を観察し、記録する。 <b>【行動目標(SBO)】</b> 1. 必要な知識について自ら述べることができ、疑問点等は自ら解決できる。 2. 症例に即した評価を円滑に行い、治療を行うことができる。 3. 経過記録を記載し、障害像を把握することができる。		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 1. 実習の手引き		
<b>【参考書】</b> 1. 理学療法に関わる参考書すべて		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法)		

平成 26～28 年度入学者用

成績評価基準は本学学則規程の GPA 制度に従う。  
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		0	0	40	15	40	0	5	100 点
評価指標	取り込む力・知識	0	0	10	5	15	0	5	35
	思考・推論・創造の力	0	0	20	5	15	0	0	40
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	5	0	0	5
	発表力	0	0	0	5	0	0	0	5
	学修に取り組む姿勢	0	0	15	0	5	0	0	15
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)		時間(分)			
1～5	オリエンテーション (学内) 実習計画書に基づいた実習対策 (学内)	講義・実技		実習の手引きを熟読しておくこと。		60			
1 週目	学外実習 (1 週目) 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技		デイリーノート、 ケースノート		120			
2 週目	学外実習 (2 週目) 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技		デイリーノート、 ケースノート		120			
3 週目	学外実習 (3 週目) 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技		デイリーノート、 ケースノート		120			
4 週目	学外実習 (4 週目) 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技		デイリーノート、 ケースノート		120			
5 週目	学外実習 (5 週目) 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技		デイリーノート、 ケースノート		120			
6 週目	学外実習 (6 週目) 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技		デイリーノート、 ケースノート		120			
7 週目	学外実習 (7 週目) 理学療法見学、症例のまとめ	実技		ケースレポート、レジュメ		120			
8 週目	学内実習 症例発表、まとめ	発表		パワーポイントでの発表とする。		120			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。